

人のぬくもりと
ふれあいが奏でる躍動のまち
丹波高原文化の郷●京丹波

広報 京丹波

KYOTAMBA

NO.57
7月号

2010年7月15日発行

託された思いを胸に
すべての力を出し尽くす





今月の表紙

消防団員が訓練成果を競い合った「操法大会」。仕事と訓練を両立し、素晴らしい操法を披露する要員の姿は会場に訪れた人々に感動を与えました。表紙写真は「和知支団和知本部」の操法。

京丹波町消防操法大会

操法要員の心を一つに日ごろの訓練成果を披露



「放水はじめ」の伝令を受ける1番員(和知支団第2分団)



勢いよくホースを延長する1番員(瑞穂支団第2分団)

NO.57 CONTENTS

- 2 操法要員の心を一つに日ごろの訓練成果を披露
「京丹波町消防操法大会」
- 5 Dr's Message いきいき健康術
- 6 4人の留学生がホークスベリー市から来町
交換留学で広がる交流の輪
- 10 京丹波町の新たな観光名所
「あっぱれたんぼ」
- 13 **FLASH** KYOTAMBA TOWN NEWS 2010
まちづくりの基本は地域のみなさんとの対話
—京丹波町区長会全体会
勇壮な太鼓の響きに酔いしれる来場者
—第11回DONと来い・丹波八坂公演
夏の暑さをやわらげる緑のカーテン
—和知小学校が緑のカーテンを設置
京都丹波ロードレースの主催者に町が参画
—「2010京都丹波ロードレース」実行委員会
地域に伝わる伝統行事
—御田祭
会場を沸かす好プレー
—京丹波町軟式野球大会
瑞穂農林株式会社が奨励賞を受賞
—全国農業コンクール
利用しやすい施設環境を目指して
—ゴルフ協会丹波支部がボランティアで除草作業
寸劇で学ぶ認知症の正しい知識
—いきいき大学
人気絵本作家の長谷川義史さんが講演
—読書講演会
中野昭さんと藤井希帆さんが受賞
—京都府体育協会表彰
- 16 ところを整える 文化発心—「文化の感動・京都国文祭」
「魅せる・人形芝居フェスティバル」
イベントを開催します



第2線を延長し「放水はじめ」の号令をかける2番員(丹波支団第2分団)



呼吸を合わせて吸管を延長する2番員と3番員(和知支団第1分団)



ホースを担いで火点へ向かう指揮者と1番員(丹波支団第3分団)



消防車から吸管を延長する3番員と4番員(瑞穂支団第1本部)



「放水はじめ」の号令をかける指揮者(瑞穂支団第3分団)

六月六日、わちグラウンドで開催された「第二回京丹波町消防操法大会」。大会には、消防団員ら約六百三十人が参加する中、ポンプ車操法の部に五隊、小型ポンプ操法の部に十四隊が出場しました。
各分団から選出された操法要員は、幹部団員や操法経験者からの指導を受けながら連日連夜厳しい訓練を重ね、大会当日には指揮者の力強い号令を合図に、訓練で培われた規律ある動作や的確で機敏な機械器具操作を披露。各隊の操法が終了すると、見守る団員や応援に訪れた家族らから惜しみない拍手が送られ、操

法要員や共に訓練に励んできた分団員らの健闘をたたえました。
なお、大会結果は次のとおり。

■ポンプ車操法の部
最優秀賞 和知支団第三分団(和知本部)
優秀賞 瑞穂支団第一分団(第一本部)

■小型ポンプ操法の部
最優秀賞 瑞穂支団第二分団
優秀賞 和知支団第一分団・和知支団第二分団
特別賞(団長奨励賞) 瑞穂支団第三分団

訓練期間から本日まで
の熱心な活動に、各分団の本大会にかけける意気込みを感じました。
出場隊の操法技術を
はじめ、各分団における
指導体制、そして審査員
である幹部の規律ある
姿勢など、すべての面
において第二回大会にふ
さわしいものであり、す
べての団員に心から感
謝します。

講評 梅原好範 団長



京都府消防操法大会に 本町の代表として出場

同大会は、八月一日に開催される「第二十二回京都府消防操法大会」への出場隊選抜も兼ねており、最優秀賞を受賞した和知支団第三分団と瑞穂支団第二分団が町の代表として出場します。

六月二十一日の結団式では、梅原団長からそれぞれの指揮者に任命書が手渡され、操法要員を代表して梅垣徹さんが「八月一日の本大会



力強く決意表明する梅垣さん(町中央公民館・蒲生野)



寺尾町長のあいさつを聞く操法要員と幹部団員

出場へ向けて一か月余りの間、京丹波町消防団の代表として操法が披露できるよう精一杯がんばります」と決意表明しました。

要員たちは現在、和知支団が北部コミュニティ広場(下栗野)、瑞穂支団が三ノ宮農村公園グラウンド(三ノ宮)で大会当日までの約一か月間にわたる厳しい訓練に励まれています。

八月一日の大会は丹波自然運動公園で開催されますので、多くの方の皆さんの応援をお願いします。

《京都府消防操法大会への出場選手》

小型ポンプ操法の部 瑞穂支団第2分団



- 指揮者 梅垣 徹さん
- 一番員 小原 直也さん
- 二番員 梅垣 祐太さん
- 三番員 小林 敬弘さん

ポンプ車操法の部 和知支団第3分団(和知本部)



- 四番員 水嶋 賢さん
- 三番員 野間 大輔さん
- 二番員 尾崎 哲夫さん
- 一番員 片山 隆二さん
- 指揮者 西村 博之さん

『歯科の訪問診療について』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は和知歯科診療所の舟木健先生。町民のみなさんの健康管理につながる歯科の訪問診療についてのお話です。

口の中の管理は健康管理に深く関わっていますが、高齢化社会に伴い、身体的に外出が困難で歯科に通院しにくい方が増えています。このような現状から、歯科医師や衛生士が自宅などに出向いて治療を行う「訪問診療」の需要が高まっています。

今回は、訪問診療では実際どのような治療を行い、どのような効果が期待できるのかいくつか紹介します。

専門的口腔ケアの効果

口の中は見えにくいので衛生的に保つのは困難です。しかし、不衛生にしていると食物と一緒に細菌が体内に入り、全身に悪影響を及ぼす可能性があります。このため、訪問診療で、歯科医師や衛生士による専門的口腔ケアを行います。

事例として、専門的口腔ケアを約五か月間実施した場合、通常と比べて口の中の細菌数が約十分の一にまで減少したデータがあり、専門家による口腔ケアの効果が実証されています。

噛む力を保つ大切さとその効果

高齢の方に多くあるのが噛む力の低下です。特に、不具合な入れ歯などでしっかり噛まずに飲み込むと、胃や食道に負担をかけ栄養状態が悪くなるだけでなく、誤って気管に食物が入り、危険な状態を引き起こすことがあります。



舟木 健先生(和知歯科診療所)

そこで、訪問診療で噛む訓練や入れ歯の調整を行い、しっかり噛めるようにすることで食べる量を増やし、栄養状態の改善を図ります。そのことで、気管内に食物が入ることを防ぐ効果も期待できます。

訪問診療で健全な口腔状態を

近年では、持ち運びができる歯科器具も多く開発され、口腔ケアをはじめ、入れ歯の作製や調整、虫歯の治療など、幅広い治療が自宅で行えるようになってきました。訪問診療を必要とされている方は、かかりつけの歯医者さんに相談してみてください。

Dr's Message

いきいき健康術 第35回



送別会で参加者と記念撮影をする留学生



送別会でギターを生演奏を披露するイモジェン



送別会で留学生にインタビューをする野口会長(町中央公民館・蒲生野)

4人の留学生がホークスベリー市から来町

交換留学で広がる交流の輪

町国際交流協会(野口久之之会長)が、国際交流事業の一環として毎年実施している「交換留学事業」。五月三十日から六月二十四日までの約二か月間、姉妹都市交流を続けているオーストラリア・ホークスベリー市から四人の留学生が来日し、日本文化に親しみながら、さまざまな機会を通じて町民のみなさんと交流を深めました。

五月三十一日に行われた「留学生歓迎会」。歓迎会では、留学生たちがオーストラリアの歌を披露し、和やかな雰囲気の中で楽しい歓談のひとときを過ごしていました。

滞在期間中、留学生はホームステイをし、ホストファミリーと一緒に生活する中で日本の生活様式を体験。また、町内の中学校や須知高校の授業に参加し、日本の学校生活を体験しな

がら、児童・生徒たちとの交流を深め、友情ときずなを育みました。

ほかに、町の名所である「琴滝」の見学をはじめ、広瀬区にある福昌寺で「禅」「習字」「大正琴」の体験、安井区で行われた「ほたる鑑賞&地域交流の夕べ」への参加、清水寺や広島県への研修旅行などにより、留学生たちは広く日本文化を学びました。

六月二十三日の送別会では、お世話になったホストファミリーや同協会の会員、学校生活で知り合った友人らとの別れを惜しみながら、滞り期間中の思い出話などに華を咲かせていました。

そして、二十四日にはホストファミリーたちに見送られながら京丹波町を後にし、一か月間の留学生生活を終えてホークスベリー市へ帰国しました。

農業体験を終えて記念撮影をする留学生とほたるの里の会員(安井地区内の農場)



市内観光で清水寺を訪れた留学生



お茶を体験する留学生(福昌寺・広瀬)



くじをくくりつける留学生(清水寺・京都市内)



習字を体験する留学生(福昌寺・広瀬)

今年も「京丹波ほたるの里」が地元イベントに留学生を招待

安井区の農事組合法人・京丹波ほたるの里(谷口忍代表)が六月十九日、留学生やホストファミリーらを招いて、「ほたる鑑賞&地域交流の夕べ」を開催しました。

同法人では、本年三月に女性部「夢ほたる」が誕生したことから、留学生やホストファミリーらを招いて、記念セミナーなどを実施。留学生らは、地元の人たちに教わりながら草刈りや黒豆の植え付けなど、農業体験した後、記念セミナーに参加し、地域の人たちとの交流を深めていました。

また、夕食会では、日本の夏を連想させる「流しそうめん」などがふるまわれ、留学生らは風情を楽しみながらおいしそうに味わっていました。

夕食会終了後は、ホタルの鑑賞会が行われ、留学生らは幻想的な光を放つホタルの姿に見入っていました。



「ふるさと」を合唱する夢ほたるの会員(安井区公民館・安井)



「夢ほたる」の誕生を記念して行われたくす玉割り(安井区公民館・安井)



別れを惜しむ留学生とホストファミリー(町中央公民館・蒲生野)



留学生にプレゼントを渡す子どもたち

ホストファミリーと留学生にインタビュー 滞在期間中の思い出は...?

山内 善史さん ファミリー(市場)

この一か月間は時間が過ぎるのがとても早く感じました。イモジェンは音楽が趣味で、ギターの生演奏できれいな歌声を聞かせてもらったことが印象深く残っています。また、「お父さん、お母さん」と呼ばれると、照れくさい反面、娘ができた喜びのようなものを感じ、息子たちもお姉さんができたようで、家族全員が楽しく過ごすことができました。交流の輪を広げるためにも、多くの人にホストファミリーを経験していただきたいと思っています。

谷山 建夫さん ファミリー(安井)

昨年に留学生を受け入れてくださったの体験と感動をしたので、今年もホストファミリーを引き受けました。ジョシュアは毎日家に電話するぐらいの家族思いで、家族の話題で盛り上がりました。また、ホタルを見に行ったり、共に生活する中で、言葉が通じなくても感動は共有することができると感じました。交換留学に関わる多くの人との出会いがとてもうれしく感じますし、このような素晴らしい機会を多くのおみなさんに味わって欲しいと思います。

小出 京子さん ファミリー(下山)

オーストラリアに行った経験があり、馴染みもあることからホストファミリーを引き受けました。テイラーは人見知りをするので最初は緊張していましたが、すぐに打ち解けてリラックスした姿を見せてくれるようになり、自分の子どものように感じました。また、テイラーの素晴らしい笑顔が印象的で、見る度にいやされ一緒にいるのが自然に感じました。言葉に表すことができない感動がたくさんあり、ホストファミリーを努めて本当によかったと思います。

宇都宮 弘さん ファミリー(中台)

来年に娘が留学する予定なので、事前にホストファミリーとして留学生のお世話をさせていたいただきました。タリンは日本を理解しようとする気持ちが高く、日本食の天ぷらや鉄板焼き、まんじゅうなどを好んで食べてくれました。また、英語が話せないのが不安でしたが、一緒に生活をする中で心が通じ合い、楽しくて幸せな日々を過ごさせていただきました。とても良い経験をさせていただいたことに感謝し、来年もホストファミリーを引き受けたいと思います。



イモジェン・クラークさん

座禅やお茶などを実際に体験することで、日本文化についての勉強ができました。京丹波町の方々の優しい気持ちに触れて、また戻って来たい気持ちでいっぱいです。



ジョシュア・マンズさん

学校生活ではクラブ活動を楽しみ、たくさんの友だちができました。京丹波町で過ごした1か月間はとても素晴らしく、みなさんに親切にいただいたことは忘れません。まいどおおきに。



テイラー・アルコックさん

日本の歴史や文化を学び、そして美しい自然風景を見ることができました。京丹波町を訪れたことを誇りに思っていますし、親切にいただいたみなさんに感謝しています。



タリン・エディさん

さまざまな行事を通じてたくさんのことを学び、日本語の力を伸ばすことができました。滞在期間中の出来事や多くの人との出会いは、わたしにとって忘れられない思い出です。

まちづくりの基本は地域のみなさんとの対話

■京丹波町区長会全体会

町区長会の全体会が六月四日、道の駅「和」道路情報センターで行われ、区長や町幹部職員ら約百十人が出席しました。

全体会は、町民の目線に立った行政の推進を目指し、地域のみなさんとの情報共有を図ることを目的として、町内八十五集落の区長を対象に、今回初めて実施。会議では、寺尾豊爾町長が「町民のみなさんとの対話を大切にしながら、さまざまな施策の実現に向けて」

かりと説明をし、将来の京丹波町を見据えたまちづくりを進めていきます」と施政方針を交えてあいさつした後、幹部職員が平成二十二年当初予算や事業概要の説明を行い、出席者からは事業内容の詳細について質問や意見などが出されました。

また、町区長会長の中西和之さん（口八田）は、「規約にもあるとおり、区長会は行政との連絡調整を目的としている。今回の全体会は画期的な取り組みであり、各地域が



会議であいさつをする寺尾町長（道の駅「和」道路情報センター・坂原）

均一的に活性化するように、行政との協働による取り組みを進めていきたい」との思いを話されました。

勇 壮な太鼓の響きに酔いしれる来場者

■第十一回DONと来い・丹波八坂公演

「第十一回DONと来い・丹波八坂公演」（丹波八坂太鼓保存会主催）が六月十三日、旧須知小学校講堂で行われ、来場者約三百人が九十分間のステージに酔いしれました。

開演に先立ち、同会の村上薫会長が「昨年は新型インフルエンザの流行により公演を中止しました。今回は、丹波八坂太鼓は打ち続けるぞー打たいでかー」をテーマに、打てることの喜びを感じながら演奏する



力強く太鼓を打ち鳴らす会員（旧須知小学校・須知）

ので楽しんでください」とあいさつをし、続いて来賓の寺尾豊爾町長が「来場されたみなさんと公演を楽しむと共に、伝統や文化を守る取り組みを進めていきたい」とあいさつをし

ました。

公演が始まると、「緋洛く太太鼓」を皮切りに、伝統曲の「尾長野」「八坂」や、創作曲「山師」「北風南風」など六曲の演目が次々と演奏され、曲が終了するたびに客席からは大きな拍手が沸き起こりました。また、今回の公演には、瑞穂鼓太鼓がゲスト出演し、「祭り」などの演奏で会場を盛り上げました。

公演の最後には、「来年の保存会結成四十周年に向けて、より一層盛り上げていきますので応援をお願いします」と、同会から来場者に意気込みを伝えました。



ゴーヤ苗の植え付け作業を行う児童（和知小学校・本庄）

夏の暑さをやわらげる緑のカーテン

■和知小学校が緑のカーテンを設置

五月二十七日、和知小学校の四年生十九人が「緑のカーテン」作りの一環として、同校内のランチルーム付近でゴーヤ苗の植え付け作業を行いました。

緑のカーテンは、朝顔やゴーヤなどのつる性の植物を育てて窓からの日差しを遮ることで、室内温度の上昇を抑え、エアコンの使用を抑制することから、地球温暖化対策として注目を集め、全国各地で取り組みを展開。同校では、環境教育の一環として取り組みを行いました。

この日、児童たちは、ランチルームの窓に張ったネット（幅七二センチ、高さ三・二メートル）の下にプランターを並べ、ゴーヤ苗八株を植え付けた後、「大きく育ててね」ときさきやきながら、ていねいに水をかけていきました。

京 都丹波ロードレースの主催者に町が参画

■「二〇一〇京都丹波ロードレース」実行委員会

「二〇一〇京都丹波ロードレース」第一回実行委員会が六月十七日、丹波自然運動公園で開催されました。

京都丹波ロードレースは、平成十八―二十一年度まで船井郡陸上競技協会と丹波自然運動公園の主催で開催していましたが、秋の一大会としてより一層盛り上げていくために、今年度から町が参画。会議では、会長の寺尾豊爾町長が「町も協力させていただくので、地域が元気になるイベントとし

て盛り上げていきましょう」とあいさつした後、同実行委員会の正副委員長が選出され、委員長に中野昭さん（町体育協会会長）が就任しました。

今年度の大会は十一月三日（水・祝）に開催。丹波自然運動公園を発着点に、三キロ、五キロ、十キロ、ハーフマラソンのコースで行い、九月十五日まで申込みを受け付けています。

なお、申込みや大会に関する問い合わせは、下記までご連絡ください。（いずれも平日の午前九時―午後五時）



会議であいさつをする寺尾町長（丹波自然運動公園・曾根）

■申込みに関する問い合わせ先
京都丹波ロードレース
エントリーセンター
電話〇七九四七〇一八二〇〇
■大会に関する問い合わせ先
京都丹波ロードレース
大会事務局
電話〇七七一八二一〇五六〇

会 場を沸かす 好プレー

■京丹波町軟式野球大会

第五回京丹波町軟式野球大会（町体育協会主催）が五月三十日、グリーンランドみずほ多目的グラウンドで行われ、中学生以上の選手で構成された五チームが参加しました。

同大会は当初二十三日開催予定でしたが、雨天により三十日に延期して実施。試合はトーナメント戦で行われ、選手たちは好プレーや周囲を和ませるプレーで会場を沸かせながら優勝を目指し奮闘していました。

なお、大会結果は次のとおり。

- 優勝 地球防衛軍
- 準優勝 丹波笠次山彦チーム

地 域に伝わる伝統行事

■御田祭

五月三十日、京都祇園八坂神社の御分社がある尾長野区（下山）で、恒例の「御田祭」が行われました。

御田祭は、昭和四十五年から続く伝統行事で、毎年五月末の日曜日に開催し、本年度四十回目。今回も町内外から訪れた観光客やアマチュアカメラマンら約二百人が見守る中、すげ笠に着物姿の早乙女八人が雅楽の調べに合わせて手植

えて苗の植え付けを行った後、同神社青年部による獅子舞の演舞や地元で伝わる丹波八坂太鼓保存会の奉納演奏がありました。

同区では、平成二十一年度京都府地域力再生事業の採択を受け、下山バイパス沿いに「尾長野区」と記した看板の設置や「御田祭」の垂れ幕掲示、会場までの道筋に行灯を設置するなど、地域活性化に向けた取り組みを積極的に行われています。



一列に並んでていねいに苗を植える8人の早乙女（下山地内）



気合いを入れてバッターボックスに立つ選手（グリーンランドみずほ・大村）

瑞穂農林株式会社が 奨励賞を受賞

■全国農業コンクール

このほど、第五十九回全国農業コンクールにおいて、瑞穂農林株式会社が毎日新聞社京都支局長奨励賞を受賞されました。

同社は、ハタケシメジの生産に特化し、日本で初めて商業栽培に成功した施設であり、間伐材であるスギのオガコを培地に利用する生産手法や、廃棄物である腐菌床を家畜を介して堆肥化し農家に還元する取り組みを展開。このような取り組みが、地域の循環型社会形成に貢献していると認められての受賞です。

おめでとうございます。



記念の盾を手にする同社の森田管理部長(右)と大島製造課長

利用しやすい施設環境を目指して

■グラウンドゴルフ協会丹波支部がボランティアで除草作業

町グラウンドゴルフ協会丹波支部が六月十日、ふれあい広場(ビジョンダンマーク周辺)内にあるグラウンドゴルフ場の除草作業をボランティアで行いました。

同支部は、多くの人が利用する施設の環境美化を目指して、普段から清掃活動を行い、毎年この時期に大掛かりな除草作業を実施。この日

は、会員約百十人が参加し、汗ばむ陽気の中で、コース内や周辺の草刈り作業などに励まれました。

同支部長の板谷一男さん(富田)は、「町有地を借りて活動しているので、二十年程前から自主的に清掃活動に取り組んでいます。グラウンドゴルフは誰にでもできる生涯スポーツなので、快適な環境の中で競技を楽しんでいただき、多くの人と交流を深めてください」と話されました。



手際よく草刈り作業などを行う会員(ふれあい広場・蒲生野)

寸劇で学ぶ認知症の正しい知識

■いきいき大学

五月二十八日、平成二十二年度いきいき大学の開講式と講演会を町中央公民館で行いました。

開講式では、朝子照夫教育長が「より充実した内容とするために、講座回数を六回から八回に増やしました。心身共に健康で充実した日々を過ごすためにも、受講生同士の交流を深めながら多くのことを学んでください」とあいさつした後、開催要項や年間行事計画の説明などが行われました。

波キャラバン・メイトが寸劇を初披露。寸劇では、物を置いた場所がわからない場面や名前が思い出せない場面などを会員七人で演じ、日常生活における物忘れと認知症の違いをクイズを交えて説明しました。続いて、荒牧敦子さんが「認知症は頭の中で起る病気であり、目で見てわからないのが特徴です。普段接している中で、『あの人のいつもと違うな』と感じたら、今回学んだ認知症の正しい知識を生かして支えてあげてください」と話し、認知症の方に対する理解と協力の大切さを受講者に伝えました。

同大学は町内在住の六十五歳以上の方が対象で、今年度は四十二人が受講。今後は、社会見学や料理教室、スポーツ大会などを開催する予定です。



寸劇を披露する京丹波キャラバン・メイトの会員(町中央公民館・蒲生野)

人気絵本作家の長谷川義史さんが講演

■読書講演会

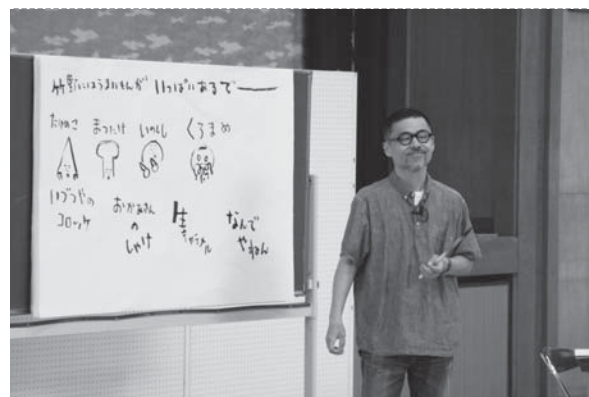
六月十九日、竹野小学校で「読書講演会」が行われ、同校児童や保護者ら約百人が参加しました。

同講演会は、竹野小学校と同校PTAが文化事業の一環として企画し、絵本作家の長谷川義史さんを講師に招いて実施。講演では、長谷川さんが自作の「いいから、いいから」の物語を話しながら筆を使って描いたり、即興で「竹野うまいものうた」を作り参加者と一緒に振り付けを交えて歌うなど、和気あいあいとした雰囲気に含まれ

た会場には笑い声があふれていました。

講演の中で長谷川さんは、「みなさんは、さまざまな可能性を秘めた『種』を持って生まれてきています。せつかく生まれてきたのだから、たくさんの人に出会い、支えになつてくれる人の言葉を大切に、種を育てながら成長していくてください」と、児童らに温かいメッセージを送りました。

また、講演が終わると、全校児童で「友達だから」を合唱し、講師への感謝の気持ちを歌に込めて伝えました。



「竹野うまいものうた」を即興で作る長谷川さん(竹野小学校・高岡)

中野昭さんと藤井希帆さんが受賞

■京都府体育協会表彰

六月十二日、平成二十二年度京都府体育協会表彰の表彰式が行われ、町体育協会会長の中野昭さん(豊田)が功労賞、藤井希帆さん(升谷)が敢闘賞を受賞されました。

中野さんは、丹波町スポーツ少年団本部長(昭和六十一年―平成十七年)、丹波町体育協会役員(平成四年―十七年)、京丹波町体育協会会長(十七年―現在)を歴任



功労賞を受けた中野さん

し、町のスポーツ振興に尽力されてきた功績が認められての受賞。また、藤井さんは、B & G杯全国



敢闘賞を受けた藤井さん

少年少女カヌー大会、カヤックシングル二百回の部で優勝した功績が認められての受賞です。

おめでとうございます。

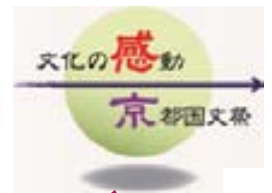


感謝の気持ちを込めて歌う児童たち

わたしたちの町

人口	16,771(-16)
男	7,922(-13)
女	8,849(-3)
世帯数	6,471(-11)
7月1日現在/()は前月比	

こころを整える 文化発心—「文化の感動・京都国文祭」



「魅せる・人形芝居フェスティバル」 プレイベントを開催します

国民の文化活動への参加の機運を高め、新しい芸術文化の創造を狙いとして全国規模で開催されている「国民文化祭」。平成23年度には京都府を舞台に「第26回国民文化祭・京都2011」（10月29日～11月6日）の開催が決定しており、本町では「魅せる・人形芝居フェスティバル～伝えよう人形浄瑠璃のこころ～」を開催します。

今年度は、国民文化祭を盛り上げるためのプレ事業として、本町が誇る伝統芸能「和知人形浄瑠璃」をはじめ、それぞれの地域に息づく人形芝居を披露します。

ご家族やともだちなどお誘い合わせのうえご来場いただき、巧みな技術と使い手の魂が込められた人形芝居の数々を、ぜひご堪能ください。



●日時● **8月1日** (日) 午後1時～午後4時30分

●場所● **和知ふれあいセンター** (JR和知駅横)

●主催● 第26回国民文化祭京丹波町実行委員会、京丹波町、京丹波町教育委員会、和知人形浄瑠璃会、第26回国民文化祭京都府実行委員会

●演目● 「さんぼそう三番叟まわし」 「はこまわ箱廻し」 あわでこほこまわ阿波木偶箱廻しを復活する会

「だてむすめこのひがのこ伊達娘恋緋鹿子」 「やおやしちひ八百屋お七」 「みやくらだん火の見櫓の段」 「いきうつしあさがおほなし生写朝顔話」

南あわじ市立三原中学校

「けいせいあわのなると傾城阿波鳴門」 「じゅんれいうた巡礼歌の段」

和知小学校

「ちやうろうごえせつぎ長老越節義之誉」

和知中学校、和知人形浄瑠璃会

〔問〕 第26回国民文化祭京丹波町実行委員会事務局(教育委員会内) ☎84-0028

編集後記

月日が経つのは早いもので、来月には息子が1歳の誕生日を迎えます。この1年は、これまでの人生の中で味わったことのない喜びや感動をたくさん経験し、子育てを通じて多くのことを学びました。また、この年齢になって、童謡を聴いたり、教育テレビを見たり、おもちゃで遊ぶ毎日を通り過ぎていくのも息子のおかげと感謝しています。

最近では、歩行器で部屋の中を歩き回り、気に入ったおもちゃで遊ぶようになりましたが、息子の成長がとてもうれしい反面、少し寂しい気持ちも…。いつまでも親離れをせずに、ずっと一緒にいてほしいと願うのは編集子だけでしょうか。(K)